

特集

運命の赤い糸

「献血」と聞いて、
皆さんは何を想像しますか？
「いつもやっている」
「針が怖い、痛そう」
「手術のときに使う輸血になる」など、
連想することは
人によってさまざまです。
あなたの腕から伸びる採血チューブは、
見えない誰かに命を運ぶ赤い糸。
そう「運命の赤い糸」です。
この糸は、どのように、
誰とつながって行くのか
今月号では、
献血について考えます。



Pick Up

今月のイベント

「はじまりの美術館」
はじまる

6月1日、知的障害者や現代美術家らの作品を展示する県内初となるアールブリュット美術館「はじまりの美術館」が町内新町に開館しました。

明治初期に建てられた酒蔵「十八間蔵」を改修して造られたこの美術館は、郡山市の社会福祉法人「安積愛育園」が運営。地域活性化の拠点施設の一つとなるよう、美術館設置検討委員会を設置し、町や町商工会、まちづくり猪苗代などと共に、美術館の望ましいあり方について検討を重ねてきました。

開館式は同日行われ、大勢の関係者や町民が出席し、除幕や鏡開きを行うなどして盛大に開館を祝いました。

開館と同時に、企画展「手づくり本仕込みゲイジユツ」が開幕。来場者たちが個性豊かな作品を鑑賞しました。花山と江子さん（木地小屋）は「展示してある作品は私たちでは考えられない発想のものばかり。このような美術館が猪苗代にできたのは素晴らしいことだと思う」と話しました。

※アールブリュット

「生の芸術」という意味のフランス語で、伝統や流行、教育などに左右されず、自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現した芸術のことをいいます。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報猪苗代

Jun.2014
7
No.645



【撮影日】 6月29日
【撮影場所】 町運動公園

今月の表紙

町民健康マラソン大会で一番の人気種目、親子競争のキッズの部。スタート時にはたくさんある笑顔も、レースが進むにつれどんどん消えていきます。そんな中、小檜山康浩さん、悠翔くん親子（手前）は、スタートからゴールまで、ずっと笑顔で走っていました。

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 特集 運命の赤い糸
- 12 国保からのお知らせ
- 14 まちのわだい
- 18 笑顔でこんにちは／サークル紹介／スクールトピックス
- 20 いなわしろタウンページ
- 24 暮らしの情報広場
- 28 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

足りない

※血液の在庫が尽きる
特定の血液型が減り、在庫
のバランスが崩れること
(献血された血液は、安全
性を高めるため、いろい
ろな検査をした上で、血液製
剤や血漿分画製剤となり輸
血されます。集まった血液
をそのまま患者に輸血する
ことはありません)。

血が足りない
その時、私たちは

福島市内の病院で5月14日、妊婦が大量出血し、緊急手術が必要になりました。手術には大量の血液が必要になり、病院は県赤十字血液センターに提供を求めました。

病院から連絡を受けた同センターは、血液の在庫が尽きてしまふ可能性があると判断。ラジオ福島に献血協力の情報発信を依頼しました。

「血液が不足しています。皆さんのご協力をお願いします。」ラジオ福島では、番組内で十数回にわたり呼びかけました。

その反響はすさまじく、放送直後から、多くの県民が献血施設を訪れ、献血に協力しました。福島市役所前に設置された献血バスの前には、ラジオを聞いた市民や除染作業員など大勢の人が駆けつけ、30度を超える暑さの中、長い行列をつくりました。

その結果、通常の平日の約二倍に相当する、516本分（200ミリット換算）の血液が集まり、女性と赤ちゃんは一命を取り留めたのです。

今回は助かった
でも、この次は

多くの県民の善意が、二人の命を救いました。

しかし、喜んでばかりもいられない現実が見えてきました。

緊急手術などがあつた場合に血液が足りなくなるといふことは、普段の血液の保管量が十分ではないということです。

輸血による治療などが必要な
※人に血液が十分行き渡るために

は、充足率108%以上が目標とされています。しかし、それはあくまでも目標値。緊急の手術などにも備え、なおかつ季節による献血者数の減少などを考えれば、それ以上の血液が必要になります。

今回は大丈夫でしたが、次は助からないかもしれないのです。「血が足りない」。

※充足率
血液の供給数に
対する採血数の
比率。検査落ち
などの減少分を
あらかじめ見込
んで、現在は約
108%が目標
とされている。

献血施設に県民が列

ラジオで呼び掛け

大量出血患者のため

た。福島県役所前に設けた献血バス2台の前には大勢の市民が集まり、最高気温30度を超える暑さの中、献血者の列が絶えなかった。

多くの善意で、通常の平日の約2倍となる516本の血液が集まり、必要量を確保することができた。同セクターの職員は「一報を受けた時はびっくりしたかと思っただけ、驚くほどの多くの人の協力のおかげで本当に助けられた」と感謝。今後継続的な協力を求めている。

平成 26 年 5 月 15 日 福島民友新聞掲載

ラジオの力妊婦救う

け

県内5カ所に長い列

多くの人の献血が、一人の女性の命を救った。福島市の病院で十四日午前、妊婦が大量出血し、血液が足りなくなっていた。病院から連絡を受けた県赤十字血液センターは、血液の在庫が尽きてしまいう可能性が出たため、ラジオ福島(rfc)に献血協力の情報発信を依頼。番組内で呼び掛けたとおり、多くの人が協力を申し出た。女性は一人をとりよめ、男児を無

事を出産。女性の家族は多くの人の善意に感謝している。

女性の出産に伴う大量出血により、二百リットルから三百二十分の血液が必要になった。血液センターから依頼を受けたラジオ福島は番の中て十数回にわたり、血液が緊急に必要なことになることを訴えた。その結果、県内五カ所、八カ所の献血施設に長い列ができた。

このうち、福島市役所で待ちの状態となった。血液は平日の約十倍の量が集まった。

女性の父親は福島県報社の取材に応じて、「たまたまの人の助けで助かっています。献血血の協力者はどこまで、病院血液センター、ラジオ局の関係者に心からお礼を言いました。今この瞬間を通して、県民の献血への関心がさらに高まってもらえるでしょう」と語った。

平成 26 年 5 月 16 日 福島民報新聞掲載

献血呼び掛け 県民の善意、女性の命救う

多くの県民の善義が一人の女性の命を救った。出産時の大量出血で生死の境に立たされ、その命を救うために多くの県民が緊急の献血に協力した女性が15日、一命を取り留めた。女性の父親は同日、福島民友新聞社の取材に「多くの人の善義が娘の命を救ってくれた。娘の命が助かったことを伝えたい」と話した。

女性の父親は15年前、同日付の福島友新聞に掲載された献血協力の記を読み、大の献民が救われたことを知り、その謝意と娘の命が救われたことを知った。父親は居ても立てられず、妻と共に地元ラジオ局を通じて献血の協力を呼び掛けた。福市の眼ホクテ血液センターを訪れ、感謝を伝えた。輸血用血液を確保し奔走した同センターの職員安達は、互いに涙流しながら無言を交わし、

く、伊達に大出血し、意識を失った。福島市の病院へ搬送され、緊急救治を受けた。『オオサチを通じた献身的訴え』は、通常平均約2倍に相当する0.0016分の血液が集まり、女性生命の糸をつなぐ留めた。多くの元気で娘も元気を取り戻した。多くの人に思いに本当に感謝した。父親は何度も何度も感謝した。父親への感謝の葉を続けた。

平成 26 年 5 月 16 日 福島民友新聞掲載

県内の献血事情は

輸血で一般的にイメージされるのは、事故やケガなどによる緊急手術ですが、それらは全体の約2割程度。輸血の8割以上は、がんなどの病気の治療に必要な分として使われています。

血液は人工的に作り出すことも長期保存もできません。つまり、病気の治療のためには、常に一定量の血液を確保する必要があります。

東日本大震災直後、県内は献血バスの運行もままならない状況に陥りました。多くの県民が生きのびるだけで必死。さらに、県全体の献血者数の約1割をまかなっていた双葉郡の皆さんが、原発事故により避難を余儀なくされるなど、県内の献血者数は大きく落ち込みました。

この頃は、他県から月千本（200ミッドバッグ）単位の協力を得て、なんとか不足分を補っていたというのが実情です。

現在、県内の献血者数は、徐々に震災前の水準に戻りつつあります。しかし、会津地域だけは別です。

会津地域の現状は

会津では輸血が必要な人に、一日平均で約20から30人分（400ミッド換算）の血液が使用されます。しかし、ひとたび大量出血が発生すると、一度で何十人分の血液を使用することがあります。安定供給を考え



福島県赤十字血液センター
会津出張所 所長
一ノ渡 俊也 さん
Ichinowatari Shunya

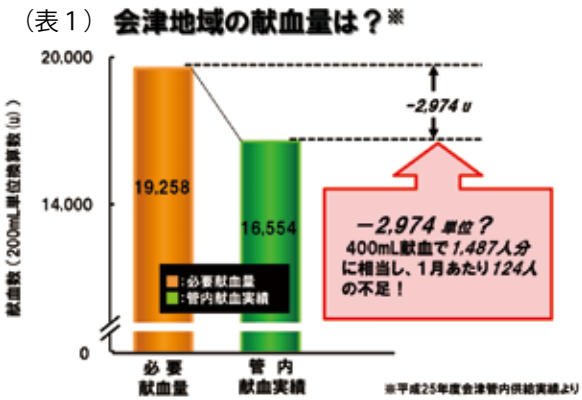
Profile 東北薬科大学大学院博士課程修了後、製薬会社全薬工業中央研究所（東京・練馬）で抗がん剤の研究開発に携わる。1991年、日本赤十字社福島県赤十字血液センター勤務。2012年から会津出張所長に就任。薬学博士・薬剤師。

ると、常に三日分を「適正在庫」として確保しなければなりません。そのためには、一日平均約60から90人分の献血が必要になります（平成25年度供給量から試算）。しかし、会津で確保できている血液は、必要な量の約91%。足りない分は、献血バスが郡山

などに出張して集めています。必要な量を会津地域だけでまかなうためには、一月当たりさらに124人分（献血バス2、3台相当）、年間で約1,487人の献血者を増やさなければならぬ計算です（表1）。

献血には、献血ルームのほか、献血バスで企業などを回る集団献血、街頭で募集する街頭献血があります。その中でも、大部分を占めるのは、企業の協力による集団献血です。現在は、その集団献血でさえも厳しい状況が続いています。

長引く不況の中、大企業であつても従業員の削減に踏み切



若い世代の協力を

このような状況の中、本年度は、日頃から支援をいただいているライオンズクラブや消防団などの各種団体を訪問しています。より多くの皆さんに献血の重要性を知っていただき、その機会を増やすなど、一層の支援をお願いしていると考えています。

会津は高齢化が進んでおり、献血できる人そのものが少ない地域でもあります。年齢が高くなれば、いろいろな病気になる人も増えるなど、献血ができなくなる要因も増えてきます。それだけに、若い世代の皆さんに協力いただくことが必要だと考えています。

若年層の献血者が減少していることは、全国的な問題です。少子化の影響かと思われがちで

すが、統計の結果、人口の減少率よりも献血者の減少率のほうが上回っていることが分かりました。

これは、子どもたちの献血に触れる機会が減少しているせいかもしれません。

近年、子どもたちの安全に配慮して、献血を実施しない高校などが増えていきます。献血後に気分が悪くなるなど、何かがあった場合の責任問題を考えると、学校の判断もやむを得ません。しかし、献血の安全性や危険性、献血事業がどう社会に貢献しているかなど、学ぶ機会まで無くしてしまわないようにお願いしたいと思っています。

日本は、国民の二人に一人ががんで亡くなる、世界一がんの多い国です。だからこそ、その治療に必要な献血事業への協力と理解は欠かせません。

献血は、年金制度などと並ぶ、命をつなぐための国民的な事業だと思っています。

私たちの医療に直結しているということを少しでも多くの皆さんに知ってもらい、協力いただくために、これからも広くPRに努めていきます。

Voice 「献血」 私たちも協力しています。



渡部 裕梨 さん
(小田)

高校生の頃、怖くて献血ができなかった私。社会人になり、職場の同僚に「痛くないから」と説得されて初めて献血しました。感想は「思ったより痛くない」。びっくりしたと同時に、これならできるだけ献血しようと思いました。今では、献血カードの献血回数が増えていくのが楽しみです。



東信建設工業株式会社
代表取締役社長
東條 泰治 さん

ほかの地区の建設会社で、大規模な協力をしているところがあるのを知っていました。企業として、仕事以外でも地域に貢献できることと考え、献血への協力を申し出ました。もともと献血していた社員も含め、関連会社9社に声をかけて、できるだけ多くの社員が参加するようにしています。

ください

震災後、落ち込んだままの会津地域の献血者数。「献血非常事態」を迎えている会津地域の現状を県赤十字血液センター会津出張所の一ノ渡所長に話してもらいました。

献血の必要性

通常、献血された血液は、3から4日間かけて慎重な検査を行い、安全性を確保した上で血液製剤になります。しかし、この製剤は長い間保存することはできません。輸血用血液製剤の有効期間（採血後）は、一定

献血の種類は

一方、成分献血は、成分採血装置を使用して血小板や血漿といった特定の成分だけを採り、回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻す方法です。成分献血は身体への負担も軽く、多くの血漿や血小板を献血できる特長があります。

現在、医療の現場で使用されているのは、90%以上が400ミリットル血液製剤です。これは、輸血の際に使用するバッグの数をできるだけ減らすことで、副作用を低減させられる可能性があるためです（800ミリットル輸血する場合、200ミリットル献血では4バッグ必要なのに対し、400ミリットル献血ではその半分の2バ

献血ができる人
できない人

献血者の健康を守り、また輸血を受ける人の安全性を高めるために、国は献血基準を定めて



会津出張所献血ルームでの採血の様子。

400ミリットル献血、成分献血への協力をお願いしています。

●血圧の薬を飲んでいる人は
2種類以上の薬を飲んでいる
人は、以前は献血できませんで
したが、血圧が正常な範囲内に

献血ができない人

○当日の体調不良、服薬中、発熱などの人（内服していても特に支障のない薬は、ビタミン剤やごく一般的な胃腸薬などの類。それ以外は、病気や薬の種類によって献血できない

い場合があります。外用薬、坐薬、点眼または点鼻薬でも一部献血できない場合がありますが、その判断は医師が行います。

○出血を伴う歯科治療（歯石除去を含む）をした人

○一定期間内に予防接種を受けた人

○6カ月以内にピアスや入れ墨を入れた人

○特定の病気（心臓病・悪性腫瘍・けいれん性疾患・血液疾患・ぜんそく・脳卒中）にか

○クロイツフェルト・ヤコブ病
(CJD)の人またはその疑
いがある人

○妊娠中、授乳中の人

○ 海外旅行および海外で生活した人で、帰国日から一定期間を経過していない場合。もしくは、滞在した地域により献血できない場合があります

○輸血歴・臓器移植歴のある人

○ウイルス検査が目的の人（エイズ、肝炎などへの感染が疑

わしい人)
○クロイツフェルト・ヤコブ病

（CJD）の人またはその疑いがある人

○妊娠中、授乳中の人

●献血予約 ☎0120-20-3977

機械で指静脈を読み取ることで、より早く簡単に本人確認をします。



入力用のタブレット端末
やICカードを紹介する
センター職員の遠藤さん



血液センター 会津出張所 案内図

皆さんの腕から伸びる赤い糸—。
きっと誰かの笑顔や未来に
つながっています

皆さんも命のリレーに参加してください

福島県の総人口に対する献血者の割合は、約4.7%。これは全国でも3位の数字です。大震災や原発事故を経験して、県民の互助精神が高まっている証ではないかと思います。県全体で見ると献血者数も徐々に回復しており、昨年度も目標値を上回ることができました。しかし、医療の回復とともに血液の需要も増えているため、十分な量とは言えないのが現状です。

今回の件では、ラジオ放送という即効性のある呼び掛けによって本当に多くの皆さんにご協力をいただきました。しかし、理想的なのは、年間を通じて安定し

た量の血液が確保できていることです。

私たちは、皆さんからいただいた貴重な血液を、ただの血液だと思って運んでいません。よくテレビで見る移植用の臓器を運ぶシーンなどと一緒に。命をつなぐものだと思って運んでいます。毎日必要とされ、昼夜を問わず365日続く「命のリレー」、それが献血事業です。

輸血用血液の80%以上は、ガンや白血病の治療に使われています。だから、毎日毎日、絶えず誰かの献血が必要なのです。ぜひこの「命をつなぐ」リレーにより多くの皆さんに参加していただきたいと思います。



県赤十字血液センター
推進課長
金子 健一 さん
Kaneko Kenichi

つながろう

輸血を必要としている人のため、献血する人がいます。
その血を届けようとする人がいて、それを応援する人もいます。
献血は、誰一人欠けても成立しない「命のリレー」。
つながろう大切な「命」を一。

県民の皆さんの安心と安全は、最優先事項

ラジオ福島では、昭和28年12月の開局当時から、献血だけでなく行方不明者や盗難車の呼びかけなどを行ってきました。

当時は医師からの依頼で「〇〇病院で血液が不足しています。〇型の方はご協力をお願いします」といった直接的な呼びかけをしていました。番組が終了する時間でも、血液が集まるまで放送し続けたこともあったと聞きます。

現在は、血液を検査して血液製剤を作ってから輸血になり、そうした呼びかけはなくなりましたが、献血車のスケジュールや献血会場からの中継など、啓

蒙活動は続けています。

今回のように緊急を要する事項を放送するのは、地域メディアとして当たり前。依頼があれば、できるだけ回数を入れるようにと指示を出しています。

県民の皆さんの安心と安全に関わる、速報性の高い情報は最優先事項。このことは明文化されていませんが、社員全員の意識の中にしっかりとあります。

今回、こうして新聞や広報紙に取り上げられましたが、ラジオ福島では、企業の社会貢献として当たり前だと続けてきたこと。それはこれからも変わらないでしょう。



ラジオ福島
取締役 放送本部長
小峰 俊一 さん
Komine Shunichi

糸でつながる

自分に子どもが生まれたとき、大切な宝物を手に入れたと喜び、世の中のすべてに感謝したことを覚えています。

同時に、もしこの子が病気になるたとき、血や臓器が必要ならば、喜んでこの身を差し出す。自分ので足りなければ、人に頭を下げ、お願いし、どんなことをしてもこの子を救いたいとも思いました。

見返りを求めず、誰かのために血液を献_{けん}げる献血は、無償の愛にあふれた行為。献血や骨髄バンクの重要性を本当に身近に感じるようになったのは、あの頃からだっただけだと思います。子どもや親など家族について考えたとき、きっと皆さんも同じことを思うはずです。

家族や親戚とのつながりをあらわす言葉に、血縁があります。血でつながる縁ならば、献血することも一つの血縁。献血が血縁関係を作るとすれば、会津も、福島も、日本中がみんな大きな家族です。

家族のために協力する気持ちを互いに持ち合い、一つにつな

がれるのではないだろうか。

忘れないこと

東日本大震災の直後は、日本中が一つとなつて助け合いました。震災の記憶やあの時に助けたあつた気持ちを忘れてならないことは、たびたびメディアでも取り上げられます。

しかし、私たちが広報を読んでいる今この瞬間にも、輸血を必要としている人が日本中にいることは忘れ去れがちです。献血ができる人はもちろん、できない人もそれを忘れないことで赤い糸をつなげてほしいと思います。

皆さんの腕から伸びているのは、命を運ぶ赤い糸。自分だけではなく、誰かの未来を守ったり、運命を変えたりすることが出来る糸かもしれません。

その先が、家族やほかの誰かの幸せに、笑顔につながっているとしたら—。

特集「運命の赤い糸」終わり

※7月は「愛の献血助け合い運動」月間です。